出題趣旨・採点基準（刑法）　配点 100 点

第１問は、緊急行為を中心に錯誤や責任も検討対象とする。甲は責任無能力だが違法な立入りにより事故を惹起している。多数説によれば正当防衛状況であるため、乙にとって客観的には甲の轢過が最適解である。乙はその状況を認識したにもかかわらず無関係な B を殺害し A の傷害を悪化させており、判断の誤りにつき過剰避難あるいは適法行為の期待可能性の低減が問題となる。責任無能力者に対する正当防衛を制限する立場からはＢ・Ａに対する緊急避難が検討されるが、B に対し避難意思のないことや A に対し傷害の認識のあることなどを的確に処理する必要がある。

第２問は、すでに第１の買主に所有権が移転した土地につき、融資を受けるための担保として抵当権を付し、さらに第２の買主の執拗な働きかけに応じて売却をしたという事案を素材として、横領罪の成立要件、詐欺罪における財産的損害、二重譲渡における第二買主に対する横領罪の共犯の成否、横領後の横領の取扱いに関する基本的理解を問うものである。